

# 医療と医療機関に関する女性の意識調査（ダイジェスト版）

千葉市女性センターでは、「医療と医療機関に関する女性の意識調査」を実施しました。この調査は、女性の自身の健康に対する認識と、医療機関との関わり、期待する医療のあり方等を調査し、今後の情報提供や施策へ反映させていくことを目的としています。

◆調査の対象	千葉市に在住する20歳以上の女性3,000人（無作為抽出）
◆調査の方法	郵送配布—郵送回収法
◆調査の期間	平成16年10月22日から平成16年11月5日まで
◆回収状況	有効回収数1,211件（有効回収率：40.4%）

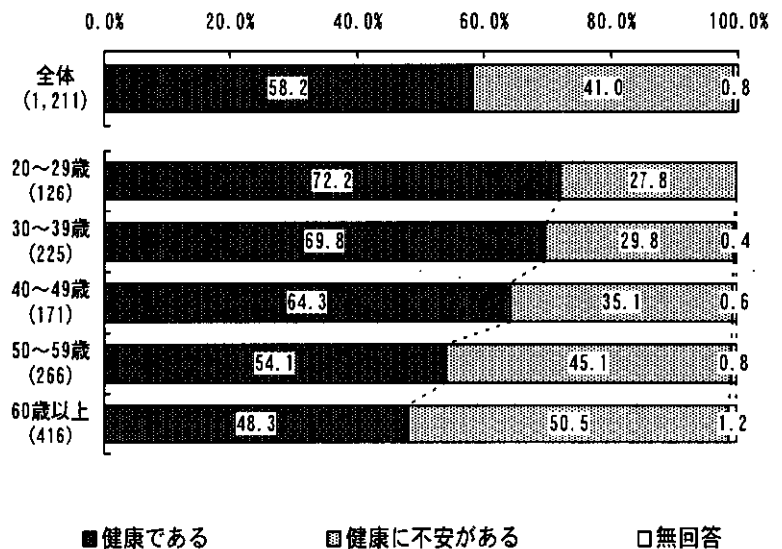
※回答の比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入したため、合算が100%にならない場合があります。

## 健康状態について

### ●「最近の健康状態」〔全体・年齢別〕

最近の健康状態について、全体では「健康である」が6割、「健康に不安がある」が4割にのぼっています。

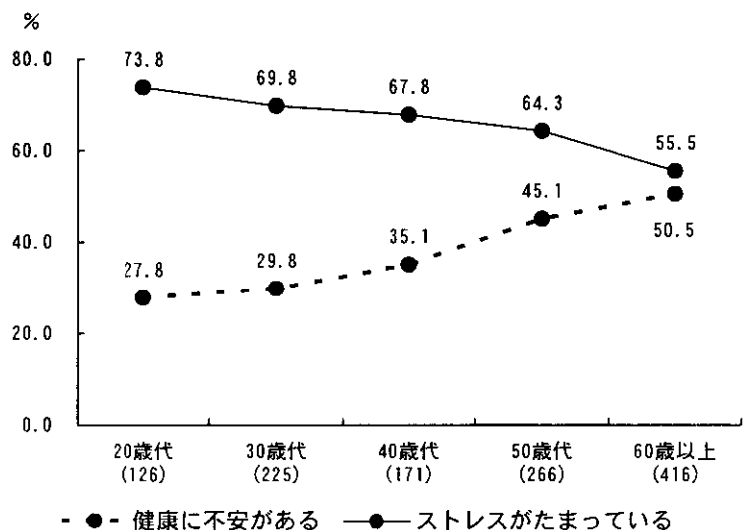
「健康に不安がある」人の割合を年齢別にみると、年齢とともに増加し、20～30歳代でも3割弱を、60歳以上では半数を占めています。



### ●「心身両面の健康状態」〔年齢別〕

最近の健康状態については、「健康に不安がある」人の割合は、20～30歳代でも3割弱で年齢とともに増加し、60歳以上では半数を占めています。

ストレスの蓄積については、20歳代が最も高く7割強で、年齢とともに減少しますが、60歳以上でも5割を超えています。



## 健康管理の状況

### ● 「健康のために日頃、行っていること（複数回答）」〔全体、年齢、健康状態別〕

健康のために日頃、行っていることをみると、全体では「食事、栄養のバランスに気を配っている」（以下、食事・栄養）が最も高く61.3%、次いで「睡眠、休養を十分にとるようにしている」（以下、睡眠・休養）が57.9%、「スポーツ、散歩など適度な運動をしている」40.9%などの順となっており、従来からの健康の3要素が上位を占めています。

年齢別では、20～30歳代では「睡眠・休養」、40歳代以上では「食事・栄養」が高くなっています。

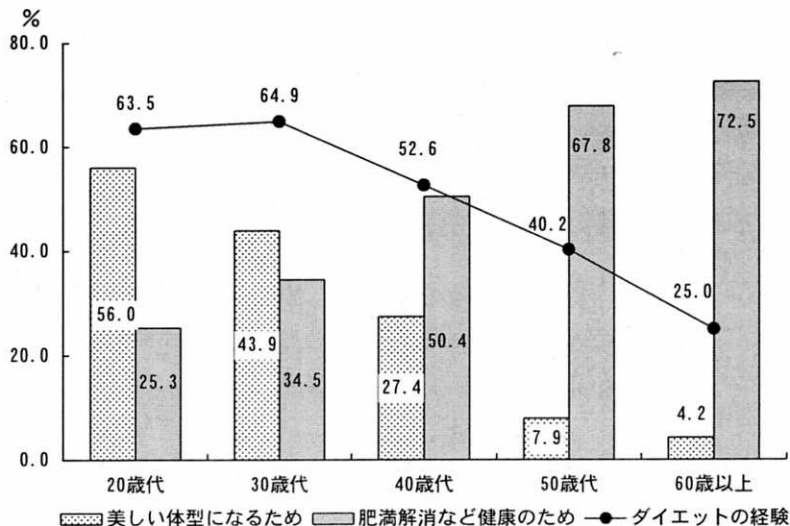
区分	母数	（%）										
		し分てに眠い取る休よをに十	ら食てん事、いス、る休るに十	をなしど適い当ツるな、運散動歩	を健い康する茶等メをンとっや	を法すやるスガト等レのッ呼ち吸	ク等アスに口しよマてりラビッ	方なスにイト等レを心すつのをけ持貯るちめ	断定を期受的に健い康る診	その他	い特に行っていない	無回答
全体	1,211	57.9	61.3	40.9	34.7	9.9	7.7	35.8	39.1	2.2	6.5	0.5
20～29歳	126	56.3	37.3	25.4	24.6	7.1	7.9	25.4	4.8	1.6	12.7	0.8
30～39歳	225	58.2	54.2	30.7	36.4	6.7	14.2	30.7	18.2	1.3	10.7	-
40～49歳	171	59.1	59.6	38.0	36.3	10.5	7.6	35.1	36.8	1.8	7.0	0.6
50～59歳	266	53.8	63.2	43.6	35.0	8.3	5.6	33.1	44.4	2.6	6.0	-
60歳以上	416	60.6	72.1	50.7	35.6	13.5	5.3	43.5	58.7	2.9	2.6	0.7
健康である	705	61.4	63.4	44.5	31.3	10.5	8.8	40.1	34.6	2.3	5.8	0.3
健康に不安がある	496	53.2	58.9	35.7	40.1	9.3	6.3	29.8	45.6	2.2	7.3	0.4

■ 1位 ■ 2位

### ● 「ダイエットの経験と目的」〔年齢別〕

ダイエット経験がある女性は、20～30歳代で6割強と高く、年齢とともに減少し、60歳以上では25.0%となっています。

ダイエットの目的をみると「肥満解消など健康のため」は年齢とともに上昇し、50歳代以上では約7割を占めています。逆に「美しい体型になるため」は20歳代が56.0%で最も高く、年齢とともに減少しています。

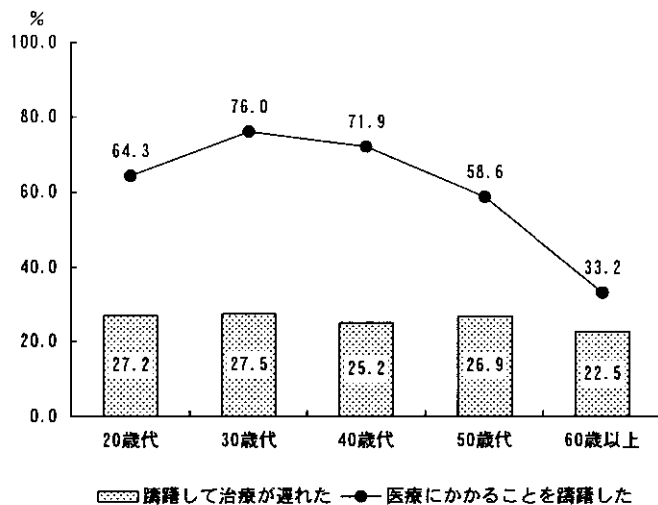


## 医療とのかかわり方

### ●「医療機関にかかることを躊躇したことと治療が遅れたことの有無」〔年齢別〕

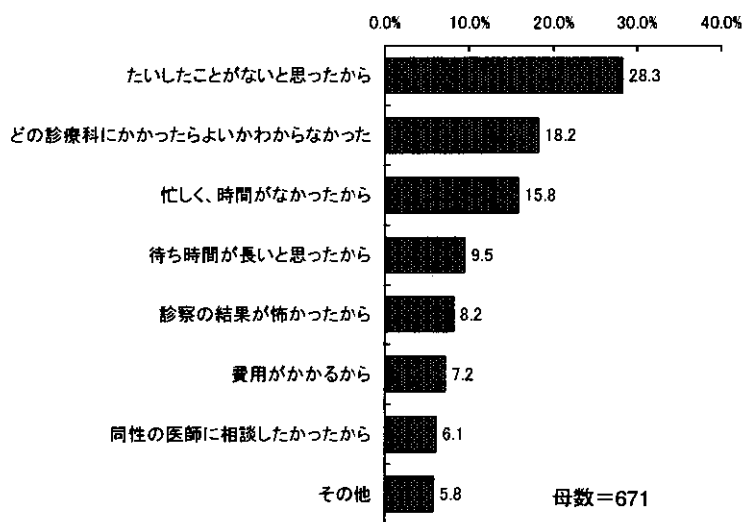
医療機関にかかることを躊躇した経験のある女性を年齢別にみると、30～40歳代が7割以上と高くなっています。

このうち医療機関に関わることを躊躇したことにより、治療が遅れた経験がある女性は年齢に関わらず2割となっています。これは全体でみると、4人に1人の割合にあたります。



### ●「医療機関にかかることを躊躇した理由」〔全体〕

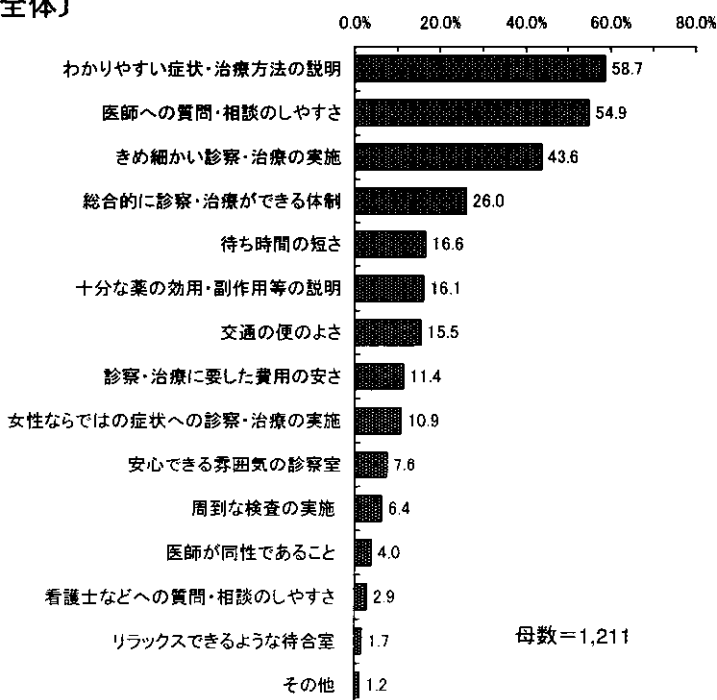
医療機関にかかることを躊躇した理由としては、年代を問わず「たいしたことがないと思ったから」が高くなっています。



### ●「安心して医療を受けるための条件（3つ以内）」〔全体〕

安心して医療を受けるための条件は「わかりやすい症状・治療方法の説明」が最も高く58.7%、「医師への質問、相談のしやすさ」が54.9%と、ともに半数以上を占めています。

次いで「きめ細かい診察・治療の実施」が43.6%、「総合的に診察・治療ができる体制」が26.0%などの順となっています。

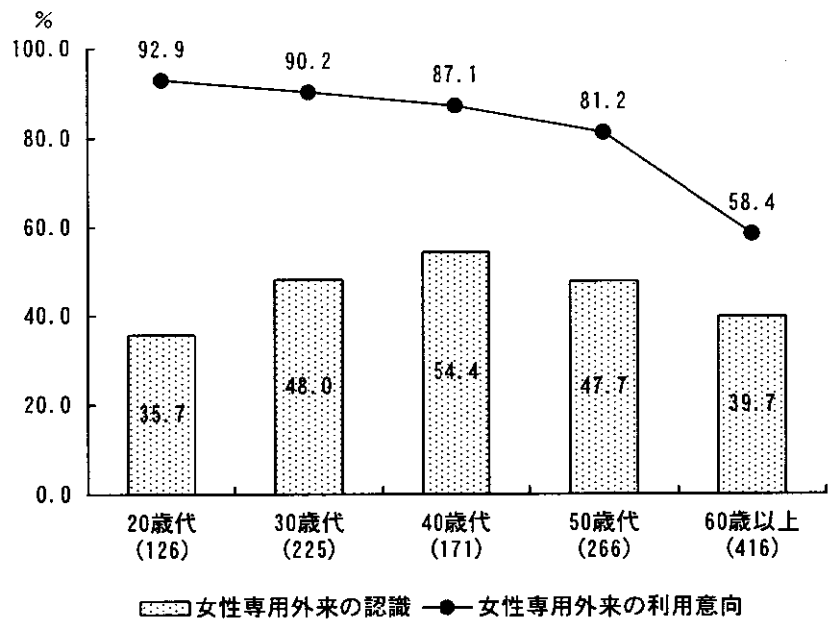


## 女性専用外来に対する認識と今後の利用意向

### ●「女性専用外来に対する認識と今後の利用意向」〔年齢別〕

女性専用外来を知っている人の割合を年齢別にみると、40歳代が最も高く5割強、30歳代と50歳代が5割弱、60歳以上が4割弱、20歳代が3割強となっています。

女性専用外来の今後の利用意向を示した人の割合は、20～30歳代が9割、40～50歳代が8割と高くなっています。



## 今後に向けて

### ① 健康について意識的であるための支援

一人ひとりが自分自身の健康状態を知り、健康状態に応じて、自身に適した生活習慣改善の方法や知識を得ることができるような情報の提供をはじめとした支援が求められます。

### ② 安心して医療を受けるためのよりよい相互関係づくり

医療とのかかわりが高まっていく中で、医療を提供する側と医療を受ける側との相互関係のあり方を考えていくことや、セルフチェックなどの身近に行える情報の提供などが必要であると思われます。

躊躇なく医療が受けられるよう、疾病に対する知識の普及や相談体制の整備、女性専用外来など女性が総合的な医療を受けられる場や機会の提供、また子育て中の母親のための一時保育の実施など、様々な状況に応じた医療を受けやすい環境の整備などが必要であると思われます。

### ③ 求められる情報に合致した情報の提供及び活動の周知

保健・医療に関して求められている情報は、日常生活にかかわるものから専門知識を要するものまで幅広い。今後も、市民のニーズに合致した効果的な情報を提供することや、既存の市の保健活動についても、より一層の情報提供や広報活動に力を入れることが望まれます。